

オミクロン累計1000人超

市中感染 18都府県で

新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の国内の累計感染者数が4日、空港検疫を含めて1192人に上った。昨年11月30日に初の感染者が確認されて以降、各地で感染が広がっており、自治体や医療機関が警戒を強めている。〈本文記事1面〉

読売新聞の集計では、昨年12月30日の段階で、同株の累計感染者は計500人だった。4日までに30都府県で1000人を超えた。このうち18都府県で、市中感染とみられる感染者が出ていた。

東京都は4日、同株の感染者が新たに8人確認されたと発表した。10〜50歳代の男女で、いずれも感染経路は特定できておらず、市中感染とみられる。都内のオミクロン株感染者は累計で55人となった。

大阪府では同株の感染者が58人確認され、累計145人となった。高齢者施設や府立高校で10〜20人規模のクラスター(感染集団)も発生した。沖縄県では47人の同株感染者が確認され、累計135人。当初は在沖繩米軍基地関係者が中心だったが、現在は基地と関係のない感染例が主流となっており、県は「米軍をきっかけに市中に広がっ

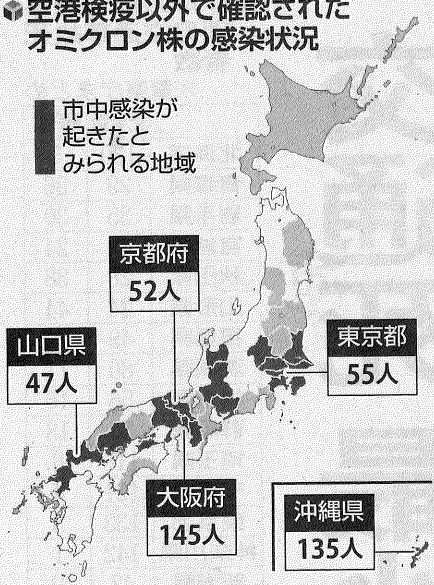
路は特定できておらず、市中感染とみられる。都内のオミクロン株感染者は累計で55人となった。

小池百合子知事は4日、幹部職員を集めた年頭あいさつで、「新たな脅威を食い止めるべく、培ってきた知見と経験の真価が問われる」と訴えた。

大阪府では同株の感染者が58人確認され、累計145人となった。高齢者施設や府立高校で10〜20人規模のクラスター(感染集団)も発生した。沖縄県では47人の同株感染者が確認され、累計135人。当初は在沖繩米軍基地関係者が中心だったが、現在は基地と関係のない感染例が主流となっており、県は「米軍をきっかけに市中に広がっ

路は特定できておらず、市中感染とみられる。都内のオミクロン株感染者は累計で55人となった。

※4日午後7時半時点、人数は累計。読売新聞まとめ



潜伏期間短く 感染力強

感染力が強いとされる新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」について、重症化リスクなどの解明が進んでいる。

東京大など国内の研究機関が参加する研究チーム「G2P-Japan」は、ハムスターに新型コロナウイルスを感染させた。オミクロン株を感染させた場合、気管支や肺の奥でのウイルス量は、デルタ株に比べ2〜4割にとどまった。デルタ株に感染したハムスターの体重は5日間で約15%減ったが、オミクロン株の場合はほぼ変わらなかったという。

各国で解明進む

オミクロン株の主な性質

感染の強さ	デルタ株の3〜5倍※
重症化リスク	デルタ株に比べ肺のウイルス量と炎症は減る※
免疫への作用	中和抗体の働きを弱めるが免疫細胞(T細胞)は有効(豪メルボルン大など)
潜伏期間	約3日。デルタ株の約4日や従来株の5日以上より短い(米CDC)

※国内の研究チーム「G2P-Japan」による

大教授(病理学)は「オミクロン株はデルタ株より重症化しにくい可能性がある」と指摘する。

豪メルボルン大などの研究チームは、コンピューターでオミクロン株の突起の構造を解析。オミクロン株は、ウイルスを攻撃する「中和抗体」の働きを弱めるといふ報告があるが、免疫細胞の一種「T細胞」による免疫の働きは維持されているとの成果を発表した。

米疾病対策センター(CDC)の分析によると、感染から発症までの潜伏期間はオミクロン株で約3日間だった。デルタ株の約4日間よりも短く、感染が速く広がる恐れがある。田中教授は「感染者が増えれば重症者も増え、病床が逼迫する恐れがある。対策を続ける重要性は変わらない」と話す。

デルタ株は表面の突起にある